

他の人が失敗した時

平成 28 年 10 月
立川女子高等学校
カウンセラーだより裏面

私たち人間は誰でも「他の人に勝ちたい」という気持ちを持っています。これは生きるための本能のようなものだと言われています。大昔、人類がまだ狩りをして暮らしていた時代には、より強い人が、獲物を捕らえ、生き延びることが出来ました。弱い人は普段は獲物を捕ることが出来ないのですが、強い人が失敗すれば、獲物を捕らえるチャンスがめぐってきました。こうしたことから、私たち人間は「人に勝ちたい」という本能とは別に、「他人の失敗を喜ぶ」という本能を持つようになったと言われています。



今、私たちは、他の人を押しのけないと食べ物を手に入れない、という時代には生きていません。他の人がどうであれ、自分にお金さえあれば食べ物や洋服などを買うことが出来ますし、努力すれば成績も上がります。ですから、他人の失敗を喜ぶ必要はないように思うのですが、私たちの心の奥には「他の人の失敗を喜ぶ」という気持ちがあるのかもしれませんが。そしてそれは、生き残るための本能として持っている「他の人に勝ちたい」という気持ちがある限り、逃げられないのかもしれませんが。ちなみに「人の不幸は蜜の味」というのは、この気持ちを表した慣用句です。



他の人が失敗すれば、私たちはつついその人を見下してしまいます。その結果、自分がその人より優れている人間だと錯覚出来るのです。「人の失敗を喜んではいけない」はよく言われる言葉ですが、成長する段階で教わったことであり、本能ではありません。誰かが失敗した時には、まず喜んでしまい、その後「喜んではいけません」と考え直すのだそうです。

テレビ番組などで、体が不自由な人が頑張っている姿を見て、「あんな人でも頑張っているんだから、私も頑張らない」と思ったり、「あんな体になってしまっかわいそう」等と思ったりするのは、体の不自由な人を見下し、自分が優れていると思込んでしまうからです。その結果、自分の気持ちに余裕が出来たので、困っている人に優しくしてあげられるようになるのです。

現実には、他の人の失敗によって、自分の実力は上がりません。テストの順位やスポーツの試合では、他の人やチームが失敗すれば順位は上がりますが、それはあくまでも人との比較の問題で、自分自身の実力が上がったわけではありません。つまり、他の人が失敗しても自分の実力が上がるわけではなく、他人が不幸になっても、自分は決して幸せになれるわけではありません。

自分の成功や幸福は、自分が努力することでしか手に入れることが出来ません。他の人の失敗や不幸で、私たちの実力が上がることもありません。もしも友達や家族が失敗した時に、ついついうれしいと感じてしまったり、いい気持ちになったりしたら、それは単なる思い込みです。その思い込みに負けて大切な人を傷つけることがないように、充分注意しましょう。

